

第 186 号 発行日 平成 24 年 6 月 29 日

合格通信

今
月
の
名
言

私には能力がある、必ず、できる、と確信する。

この確信は、不可能と思えたものでも可能にするのです。

— 宇野 千代 —
『私の幸福論』

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

子どものタイプ別対処法④

保護者面談をしているとよく「何でうちの子はやる気を出してくれないのだろう」そう言うってくる親はとても多いのです。けれども子どもはひとりひとり性格が違いますし、これまで育ってきた環境も違います。やる気が出せない理由は様々です。なかなか勉強に入っていない子どもたちには、どのような悩みがあり、どんな問題があるのでしょうか。



「失敗が怖いタイプ」成績が優秀だからこそ失敗がとても怖い

- ・上位の高校を目指している
- ・親にも期待されている
- ・いままでいつも成功してきた

そのようなお子さんは失敗を恐れてしまいがちです。失敗を恐れてなかなか行動できない子どもに、私たちはよく、

「悩んでいても一歩も前には進まない。そうやって悩んでいる時間はもったいないから、まずは一歩努力しようよ」

という言葉をかけますが、それは決して本人には伝わりません。

私たちはよく、行動する前からよく悩んでいる人に向かって、「やるだけやってみて駄目ならしょうがないじゃない」というような慰めを言いがちです。けれども、その人が青春や人生をかけてそれをやっている場合には、そう簡単に受け入れられるものではありません。「できないかもしれない」という恐怖心から悩みに悩んで、どうしても第一歩が踏み出せないという経験は誰にでもあるはずです。

「ひょっとしてぼくはここでだめになるのではないかな。もう伸びないのではないかな。ぼくよりも優秀な人がたくさんいるから勝てないのではないかな…」

成績優秀で、上位の高校を目指しているお子さんは、このような不安に襲われて勉強が手に付かなくなってしまう。勉強しているときも、

「こんなことをしていて、勝てるのだろうか。入試までに間に合うのだろうか。合格する人たちは、もっと別のやり方、レベルの高いやり方をしているのではないだろうか」

と気になって、目の前の勉強に集中できません。

このようなお子さんが受けているプレッシャーは、オリンピックの選手が受けるのとほぼ同じ種類のプレッシャーです。このようにちょっと大げさに表現したのは、あなたに気付いてほしいことがあるからです。

もしもあなたのお子さんが、失敗を恐れて悩んでいるとしたら、それは「自分はどうしてもその高校に入りたい。けれどもその希望がかなわないかもしれない」という程度の悩みではないのです。

お子さんの悩みはズバリ、

「お父さんお母さんをはじめ、周りのみんなの期待を裏切ることになるかもしれない」という悩みなのです。

そしてさらに、不合格になる、または自信がなくて志望校をワンランク落とす、そのことによって、その後の自分はどのように変わってしまうのかと悩んでいます。

このタイプのお子さんは非常に向上心があり、頑張り屋で、当然それに見合う正当なプライドもあります。だから、志望校に落ちるというピンチに直面した時に、自分はどのようになってしまうのかを想像して恐れています。

また、もしも志望校をワンランク落とすようなことがあったら、それを「敗北」と感じてしまって、その後の自分はやる気をなくしてしまうのではないかと不安に思っているのです。

・・・次号に続く。